

## 子牛の風邪対策について

冬は空気が乾燥し子牛の風邪が多くなる季節です。防寒対策をしっかりと行ってスムーズな発育を目指しましょう。



畜産部  
畜産指導課長  
園田 伸二

### 1. 保温と換気

子牛は体温調節が苦手です。保温と換気に気を配りましょう。

- ・哺育中は保温を優先すること。

哺乳子牛は、体温維持機能が低く体力もないため、環境気温に気を付けましょう。

※保温と換気の両立が大事ですが、子牛が寒いと感じるよりは保温を優先すること。

床が常に乾燥して暖かい状態を保つ必要があります。

※子牛の免疫力の中心基地は、お腹の右側の小腸「腸管免疫機構」にあり、ここの温度が1℃下がると免疫力が8%も低下すると言われています。

- ・粗飼料をしっかり食べられる育成期に入ると換気を優先すること。

牛は、第1胃で食べたものを発酵消化します。この時に出る発酵熱が牛の体温の最も大きな発生源で小腸も温められるので、免疫が維持されます。

### 2. 畜舎の環境

寒さ・乾燥・くもの巣やほこり・アンモニア等の対策をしっかりと行いましょう。

のどや鼻は粘膜に守られているため、ばい菌やウイルスはそう簡単に牛に取り付くことはできません。

- ①畜舎の風通しをよくしましょう。

- ・畜舎内のアンモニア濃度が高いと、アンモニアガスがのどの粘膜を破壊してしまいます。

かぜや肺炎は空気感染です。冬場でも暖かい昼に風通しをよくしましょう。

- ②くもの巣や天井のほこり

- ・気管や肺の粘膜に炎症を起こす原因になります。天井のほこりを掃除しておくことは、肺炎だけでなく下痢の予防にもとても大切なことです。



### 3. 疾病予防

疾病予防にはワクチンも効果的です。

子牛の呼吸器病や下痢に対するワクチン摂取については、各自治体で子牛損耗防止対策を実施されていますので役場の畜産担当者へお問い合わせ下さい。

### 4. 畜舎への防疫体制について

畜舎への病原菌の侵入防止のために、踏み込み消毒槽の設置をお願いします。

巡回する畜産関係者に踏み込み消毒槽で消毒してもらい病原菌の侵入を未然に防止しましょう。